

事務事業名	芦安チロル学園運営費 ☐ 実施計画事業		所属部局	教育委員会		単位番号	12089																													
			所属課室	芦安南アルプスチロル学園		課長名	深澤 秀																													
			所属担当			担当者名	深澤 秀																													
基本政策	基本計画体系	V	個性と文化を育む都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目																									
		23	学校教育の充実		01	一般	1	0	0	4	0	3	0	8	0	0	1																			
政策				事業区分	☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金																															
施策		36	「生きる力」を育む学校教育の推進																																	
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返（開始年度 6 年度） ☐ 期間限定複数年度（ ～ 年度）		法令根拠		南アルプス市芦安都市農村交流センター条例																															
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載				事業費の主な内訳（22年度）																															
	芦安南アルプスチロル学園は、平成6年に長期山村留学施設として開設いたしました。地域の人々との交流や自然体験を通してたくましい身体や心の育成をねらいとしたもので、山村に転住して地元の学校に通学する事業です。				<table> <tr> <th>項目(細節)</th> <th>金額(千円)</th> <th>項目(細節)</th> <th>金額(千円)</th> </tr> <tr> <td>臨時職員賃金</td> <td>11,610</td> <td>修繕費</td> <td>292</td> </tr> <tr> <td>報償費</td> <td>40</td> <td>賄材料費</td> <td>2,262</td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td>726</td> <td>通信運搬費</td> <td>148</td> </tr> <tr> <td>燃料費</td> <td>770</td> <td>その他</td> <td>1,083</td> </tr> <tr> <td>光熱水費</td> <td>1,011</td> <td>計</td> <td>17,942</td> </tr> </table>								項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)	臨時職員賃金	11,610	修繕費	292	報償費	40	賄材料費	2,262	消耗品費	726	通信運搬費	148	燃料費	770	その他	1,083	光熱水費	1,011	計	17,942
	項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)																																
	臨時職員賃金	11,610	修繕費	292																																
	報償費	40	賄材料費	2,262																																
消耗品費	726	通信運搬費	148																																	
燃料費	770	その他	1,083																																	
光熱水費	1,011	計	17,942																																	

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	22年度活動実績 7名の学園生が在籍 仙丈岳への親子登山14名参加 短期留学27名参加 5月、7月実施 23年度活動予定 8名の学園生在籍 親子登山の実施 短期山村留学(市内)28名参加
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	小学校3年生～中学2年生までの児童
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)	地域の人々との交流、自然体験など行い地域の小中学校に通学する。
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	豊かな人間性を養い、自立、自律の精神や他人を思いやる心、仲良く使用とする気持ちを育てる。

⇒	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない								
	<table> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>アチロル学園在籍児童数</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	アチロル学園在籍児童数	人	イ		ウ	
名称	単位								
アチロル学園在籍児童数	人								
イ									
ウ									
⇒	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない								
	<table> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>ア入園希望者数</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	ア入園希望者数	人	イ		ウ	
名称	単位								
ア入園希望者数	人								
イ									
ウ									
⇒	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない								
	<table> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>ア事業参加者数(小中学校に通学している児童生徒)</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	ア事業参加者数(小中学校に通学している児童生徒)	人	イ		ウ	
名称	単位								
ア事業参加者数(小中学校に通学している児童生徒)	人								
イ									
ウ									
⇒	⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない								
	<table> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>アチロル学園に入園してよかったと思っている児童生徒の割合</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	アチロル学園に入園してよかったと思っている児童生徒の割合	%	イ			
名称	単位								
アチロル学園に入園してよかったと思っている児童生徒の割合	%								
イ									

(2) 事業費・指標の推移			単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国库支出金	千円						
			県支出金	千円						
			地方債	千円						
			その他	千円	3,965	4,013	6,285	6,285	6,285	6,285
			一般財源	千円	13,186	13,929	12,041	12,041	12,041	12,041
	人件費		事業費計 (A)	千円	17,151	17,942	18,326	18,326	18,326	18,326
			正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1
			延べ業務時間	時間	2,096	2,096	2,096	2,096	2,096	2,096
			人件費計 (B)	千円	9,350	9,350	8,304	8,304	8,304	8,304
			(A)+(B)	千円	26,501	27,292	26,630	26,630	26,630	26,630
活動指標		アイウ	人	6.0	7.0	10.0	10.0	10.0		
		アイウ								
		アイウ								
対象指標		アイウ	人	7.0	7.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
		アイウ								
		アイウ								
成果指標		アイウ	人	38.0	36.0	37.0	38.0	34.0	34.0	34.0
		アイウ								
		アイウ								
上位成果指標		アイ	%	18.0	19.0	27.0	26.0	29.0	29.0	29.0
		アイ								

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	平成6年度芦安村において地域の活性化を目的として開園された
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	平成6年度20名5年前の平成18年度13名平成23年度8名と減少している、このまま推移してゆくと思われるが、広報活動などの重点事業により増員も可能と思われる。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	芦安地域住民から強く存続の要望が出されている。また、芦安ファンクラブ、芦安の将来を考える会から強く存続の要望が出されている。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている ⇒【内容！】 ☒ 取り組みしていない⇒【理由！】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過（取り組みしていない場合はその理由）	募集人員確保のため、県外の卒園生にも広報活動を依頼している。新聞広告や市HPにも重点的に掲載している。なお市内小学生を対象として昨年度より短期山村留学を実施し市内への広報活動を行っている。さらに市内公共施設にも広報チラシの配布を行っている。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	市内小学生を対象とした短期山村留学その中に芦安地域独特の事業を盛り込んだ。また現チロル生には親子登山で南アルプス仙丈岳への登山や地域との交流会を重点的に行った。

事務事業名	芦安チロル学園運営費	所属部	教育委員会	所属課	芦安南アルプスチロル学園
-------	------------	-----	-------	-----	--------------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 入園生の市内児童及び県外児童に学園の目的である自主自立の促進に貢献している。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 小学校、中学校の児童生徒の増加を期待するものであるので市の関与が必要
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 チロル学園事業の内容から対象や意図は適切である
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 長期留学と短期留学の積極的な実施が出来る。
	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 小学校、中学校の児童生徒数が減少し地域の活性化が減退する
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 臨時職員4名、正職員1名で対応している、また諸経費についても節約に心がけているが、地元講師による後援や地元住民の協力により事業費の削減が図れる。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方・見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 臨時職員4名正職員1名で対応しているがこれ以上の削減は出来ない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 使用料や負担金については小学校、中学校別金額により徴収している

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	実施内容の見直しにより効率よく実施することが出来る。よって地域の活性化につながる。小中学校の児童生徒数の増加が見込める。また職員数の削減はこれ以上できない。さらに使用料や負担金は適切で公平である。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト水準</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th> <th>向上</th> <td>☐</td> <td>☐</td> <td>☐</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td>☐</td> <td>☒</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td>☐</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	☐	☐	☐																		
	維持	☐	☒																			
	低下	☐																				
(2) 改革改善案について																						
①早い段階より広報活動をおこなう ②魅力ある長期山村留学施設として募集強化 ③チロル学園の事業内容の見直しを行う																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策	(5) 事務事業優先度評価結果																					
①入園生の減: 魅力ある学園として継続児の受け入れを強化する。市内外への広報活動を強化する。 ②市内に周知されていない: チロル学園の存在の周知、活動の周知、短期留学の実施(南アルプス市内)広報の充実 ③一人当たりの経費大: 募集人員の確保による一人当たりの経費の減、経費の見直しをし無駄を省く。地元協力員の積極的な活用を行う。(講師等)	<table border="1"> <tr> <td>成果優先度評価結果</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>コスト削減優先度評価結果</td> <td>⑫</td> </tr> </table>	成果優先度評価結果	⑥	コスト削減優先度評価結果	⑫																	
成果優先度評価結果	⑥																					
コスト削減優先度評価結果	⑫																					